

あよく事業仕分けというのをですね、民主党政権のときされてましたけど、やっぱりこういったプロが見ますとですね、やはりわかるそうでございます。プロが見ればですね。

あと、まあ一連のこういった公会計の分で、財務指標もお話をしましたけど、やっぱり今からの時代ですね、よく会社で、銀行で十数年前ですね、不良債権ということで大改革をされた記憶があると思いますけど、公的な分はですね、これまだやっておりません。いわゆる1億で買った土地がですよ、今、実勢価格1,000万しかなければ9,000万の含み損というですね、そういう分があれば、この財務指標もですね、もうものすごく負債を抱えた、ある意味それがあるから国も動かないのかなという思いも持っておるんですけども、ぜひその分も含めましてですね、固定資産台帳の大きな施設だけでも先行して進めていただきたいというのと、職員の教育ですね、それを進めていただきたいなと思っております。

もう、あと1分ですので。

消防団の分は、市長も前向きに考えてくださるということですので、それに期待をしておりますけれども、今回その、いろんな防災、減災のほうでのですね、大きな施設での補助金と、で、今回の消防団支援法によって、まあ人件費のほうっていうか、小さな施設での支援がありますよね、そこら辺を取り損なわないように上手にさせていただいて、ぜひ出動手当は先ほど市長もおっしゃいましたように、ずっとここ何年かで近い、この前の3月に改正しております、この分については総務省の基準額からいきましてそう大差ないんですが、年額報酬につきましては消防団員の金額は非常にやっぱ他市に比べて低すぎるというのがありますので、せっかくですのでちょっとだけでもですね、頑張っていたきたいなと思ひまして質問を終わらせていただきます。

よろしくお願ひします。ありがとうございました。

○議長（作元 義文君） これで、7番、黒田昭雄君の質問は終わりました。

○議長（作元 義文君） 昼食休憩とします。午後は1時から再開します。

午前11時51分休憩

午後0時59分再開

○議長（作元 義文君） 再開します。次に4番、船越洋一君。

○議員（4番 船越 洋一君） 一風会の船越洋一でございます。

一般質問もきょうは2日目で、私がきょうは最後の登壇となりますけども、市長の明快なる御答弁を期待して質問に入りたいと思います。

それでは通告に従ひまして次の2点について伺います。

まず、1点目は日韓、対馬韓国の交流600年祭についてであります。

私はこのようなイベントを開催し、島の活性化を図ったらどうかと思うわけであります。文献によりますと市長も御承知のように、対馬藩では宗貞茂が佐賀に府を開き、倭寇を鎮めて朝鮮との通交貿易を始めたのが西暦1408年でありますので、今から606年前だと思えます。そのような前から通交貿易を行っており、西暦1408年でありますので、今から606年前だと思えます。そのような古い時期から通交貿易を行っておいりましたので、600年も前からこの対馬、韓国というのは交易が始まったわけであります。

しかしながらオランダと長崎出島、琉球王朝と薩摩藩、朝鮮と対馬藩とで通交が、貿易が行われておりましたが、その中でも対馬藩は歴史上、日本では最も古くから国際交流が始まったと思われまます。

長崎県では西暦2000年に日蘭交流400周年事業として、長崎オランダ年を開催し、多彩な記念事業が行われ大きな経済効果があったと聞いております。

しかし、現在対馬でも国境マラソンIN対馬、ちんぐ音楽祭、厳原港まつり、朝鮮通信使行列等々、多彩な韓国との交流イベントが開催され、昨年は18万人もの観光客が訪れて友好交流が続いております。

特に、本年は日韓国交正常化50周年を契機として、朝鮮通信使関連資料の世界記憶遺産への登録申請も進められております。しかしながら現在、日本と韓国との政府間では外交が大変冷え込んでおり、従軍慰安婦の問題、歴史教科書の問題、竹島の問題、また対馬では仏像の盗難事件もあり、いまだに解決ができていない状況であります。日本と韓国との外交が途絶えている今だからこそ600年も前から交流を続けてきた対馬の出番だと思われまます。

対馬藩の儒学者であり外交官でもあった雨森芳洲先生は、誠信の交わり、互いに欺かず争わず親切を持って交わりと説いており、また隣人が互いに互いの文化を理解して互いに誠実に交わりば信義も信頼もみずから生じるとも説いております。

日本と韓国との冷え込んだ外交を対馬が少しでも和らげることができれば、対馬にとっても日本にとっても大きな成果があると思えます。豊臣秀吉の朝鮮出兵や徳川幕府の国書改ざん等、当時の対馬藩主、宗義智は、対馬藩と徳川幕府を支えるため幾多の困難を乗り越え交易を行っております。

現在に置きかえれば、対馬藩主が市長で幕府が政府だと思えます。このようなときだからこそ日韓交流600年祭を対馬で開催する意義があると思えますし、アジアに発信する歴史街道都市対馬を日本国内はもとより、国際社会に対馬の存在を大きくアピールできると思えますが市長の考えをお伺いします。

次に、南部地域の振興策について、多久頭魂神社を中心とした観光対策。

9月定例会で質問をし、答弁もいただきましたが、その後、産業建設常任委員会でも現地調査

を行い、委員長報告でも大型バスが乗り入れできていない距離は約200メートル程度であり、市道の道路改良を早急に行う必要がある。あわせて観光客が増加していることを考慮し、神社付近の公衆トイレを新設されることを望みますとの報告が議会で報告をされております。

また、市長の答弁でも、豆殿という地区は民俗学的に特異な地域であり、赤米があるというだけでなく、風俗、習俗全てにわたっているような違いがあり、日本文化の基礎部分を持っている地区なのかもしれない。重々私自身も理解はさせていただいている。どうかして豆殿を中心とした売りとして物事を組み立てたい。道路改良については、一度調査させていただきたい旨、答弁をされておりましたが、その後どのように調査、研究協議等がなされているのかお伺いをいたします。

教育長にお伺いします。

豆殿の里山の自然、景観と歴史と文化財を生かした地域づくりに地元の方々と連携し、協議を重ねながら文化、文化財の保存整備並びに文化振興が観光対策とつながるよう努めていきたいと考えておりますとの御答弁をいただいておりますけれども、その後、地域の方々とお話をされているのかお伺いをいたします。

以上、2点、御答弁をお願いします。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 船越議員の質問に答えさせていただきます。

1点目の、まあ大きくくりますと、日韓交流をどんどん進めていくための方策として600年祭というものを開催してはどうかという御提案でございました。

その前にその交流という問題でございしますが、私、先月の25日にNHKのラジオのほうに、生放送でインタビューを受ける形で出演をさせていただきました。

そのときに、恐らく私の基本的な考え方として交流、まあ他国との交流のみならず交流という部分ですが、私どもこういう国境に位置する私どもは異文化と交わることによってのみ自分たち自身は、島民は昔から高まってきたんじゃないかと、それしか方法はなかったんじゃないかというふうな話をさせていただいたところです。

その交流、異文化と交わるという部分において、600年以上も前から、貞茂の時代から確かに対馬の歴史年表では通交が始まるというふうなことがあります。歴史年表上は、年代っていうのが応永年中という書き方をしてありまして、応永何年かからは私もちよっと定かではないんですが、少なくとも言われたように600年以上はたっているというのはもう明らかです。そのような歴史を持っている私どもの島だということは、ほかの日本の中においても特異な地域だというふうに思ってます。

日蘭の400年にしましても出島にしましても、そんな歴史があるわけではありません。これ

から私どもはやはり生きていく、対馬が生き延びていくためにも、この異文化との交わりというのを積極的にやらざるを得ないと、やるのが自分たちの生きる道だというふうに思っています。そういう中、応永年間といいますと1419年に歴史年表でも出てきますが、浅茅湾を中心とした応永の外交で、糠岳の戦いとかいろいろな問題がやっぱりあります。

この応永年間の問題については、日韓それぞれの歴史の捉え方が違う問題もありますけども、その倭寇の取り締まりから始まったものですから、それから通交というのにどんどん広がっていった歴史はそのあたりからだろうという、私自身も認識は持っております。

で、その後、対馬が江戸幕府の命によりまして、義智公は苦難の末に国交をまた回復する、正常化に戻すというふうなこと、その象徴として通信使を受け入れるというふうなことになった次第です。

その後、御存じのように12回、通信使は対馬に来るというふうなことであります。でこの通信使をテーマに20年以上前から朝鮮通信使の縁地連絡協議会というのを全国に呼びかけて今、縁地連という略称で活動をずっと続けております。その縁地連の目標っていうのが2015年、来年になりますが、日韓国交正常化50年を記念しまして、国内外に存在をしている通信使の遺産というものを広域的に捉え、日韓両国でユネスコに記憶遺産に登録する取り組みを縁地連としても始めたところでございます。もちろんこれまでも日韓、国会議員の先生方及び長崎県にも支援をお願いしてまいりました。事務局となっておりますこの対馬市においても、縁地連組織を任意団体から法人格への昇格を現在目指しているところであります。

この日韓交流のリーダーシップのイニシアチブを私ども対馬市がとることは会員の皆様にも認めていただいている次第でございまして、これにより名実ともにアジアに発信する歴史街道都市というものを標榜したいという考えでございます。

議員御提案の交流600年祭につきましては、対馬の置かれた立ち位置というものを大きくアピールできるオンリーワンであり、一つの大きなテーマであります。

しかしながら、当面、朝鮮通信使のこの遺産を、日韓共同によります通信使登録、記憶遺産登録というものに、2015年を節目の大きな取り組みに持っていきたいというふうに現時点では考えておるところでありまして、その50年という部分を国も日韓関係がさまざまな形で報道されてるような状況がありますけども、その改善を担っていくのがまず対馬かと思ひ、改善に向けての始まりが通信使の登録問題だろうというふうに思っております。

これらに全精力を傾けて取り組ませていただければと思っております。その後、今おっしゃられたような次なる交流の新たなイベントというものの考え方に組みまさせていただきますところでもあります。

次に、2点目の南部地域の振興策について、9月議会定例議会以降の動きというものを今、御

質問があったところでございます。もう、豆殿地域における問題というのは地域の資産等についてはもう十分に御存じですので割愛をさせていただきたいと思いますが、この多久頭魂神社境内の駐車場といいますか、境内前の駐車場といいますか、これについては、産建委員長の調査報告も読ませていただいているところです。私自身もあの場所に行き、豆殿広域農道から境内の鳥居のところまで実際歩かせていただきました。まあ、おっしゃられるように200メートル程度の長さというふうに私自身も感じております。それで勾配もそんなにきつくないですから、私的には、工事的には物事はできる部分だろうというふうには感じて現地調査はさせていただいたところがあります。

やはりあのときも9月でも話をちょっとさせていただいたと思いますが、やはり今度は、多久頭魂神社と豆殿地区との間に、若干の今度は農地を挟んでの距離がわずかばかりございますけども、裏側といったらおかしゅうございますが、神社の裏手から入ってきての道路になった場合、豆殿地区集落へどのように今度は人を運び入れていくかと、単に道路だけの問題ではなくて豆殿地区内のソフトをどうつくり込んでいくのかということがあろうかと思えます。

で今回、3月1日に赤米の伝統文化ということの協定を結ばせていただきました。というのは、全国3カ所豆殿を含め、岡山県総社、それから鹿児島県の南種子の町長さん、市長さんともお話をしましたが、その中で歌手の相川七瀬さんのほうからもやはり提案があったのが、今の神事、赤米神事をこれから先もずっと残していくためにどのようにしていけばよいかということ、豆殿地域全体でも考えていただかなくてはいけない問題がここにはあろうかと思えます。

で、お1人だけで今、神事を残してありますけども、その神事のみならず、神事を残していくためのバックアップ体制みたいなのを豆殿全体でつくってもら、もしくはそれ以外のところでもいいんですけども、豆殿がまず主体となってやっていただく、そのときに赤米といいますと多久頭魂神社との関係も色濃くあるわけですし、そのあたりの問題をどのようにつくり込んでいくかということも含めて、地域の人たちにも一緒になって考えていただきたいというふうなことを、私のほうは今、考えております。

で、新年度になりまして総合計画のつくり込みの段階になります。当然、校区別に大体組み立てをしようと思っておりますので、豆殿校区っていうのも地域づくり計画というものをつくっていただく、その柱となるのがやはりこの多久頭魂神社、赤米とか、ほかの民俗学的な問題をどう組み込んでいくかということには当然なる問題だと思っております。

そのあたりの総合計画のつくり込みの中に、この問題も入れながら組み立てをしていきたいというふうにごちらとしては考えております。

以上です。

○議長（作元 義文君） 教育長、梅野正博君。

○教育長（梅野 正博君） 南部地区には国指定の重要文化財の多久頭魂神社の梵鐘のほか、県指定埋蔵文化財である檜ぼの遺跡などがございますが、特に古くから伝わる伝承、慣わしなどが残る地域として、亀卜習俗、赤米頭受け神事、サンゾーロ祭りなどの無形民俗文化財として国、市の指定や選択を受け、現在まで伝えられている地域でございます。

先ほど、船越議員さんから、地域の方々とお話をするということであったが、したのかという御質問でございますが、正直申しましてまだ具体的なそういう協議はできておりません。

教育委員会としましては指定されております文化財の保護を最重点に考えながら有形文化財、史跡、天然記念物、名勝など早急に対応が必要な箇所から順次対応を図っていきたくと考えております。

また、南部地区にもたくさんの有形無形の指定を受けた文化財が存在しておりますので、地域の方々の御意見を聞き、また御協力をいただきながら地域の振興につながる文化財の保護、整備に努めていきたいと思っております。

御理解いただきたいと思います。

○議長（作元 義文君） 4番、船越洋一君。

○議員（4番 船越 洋一君） 市長にお伺いしますが、この歴史が一番日本の中でも市長も言っていましたようにね、日本の中では一番古い、外国との交易があるんですよね、対馬がね。ほかの地域がこういうことをやろうと言ったってまずできません。それだけの素質を持っているこの対馬がこの点を生かさんということはないと私は思うんですよ。特に対馬だからこそこれができるという特異なもんも私はあると思うんですよね。

今、おっしゃられるように、縁地連絡協議会、これはもうほんと20年も前からやっておるわけですけども、いろんな事業をやっているんな地域との連携をとりながらですね、まあ活発的にやっていただいておりますから、まあそれはそれでいいんですよ。今、市長の言われる、それはそれでいいんですが、要は対馬を私は思うのは、対馬をどう売り出していくなあとということだろうと私はそう思うんですよ。それも一つの方策だろうと思います。

しかし大きな原点に立ち返ってね、この対馬全体を考えたときに、どう国内外にそれを出していくかということになると、やはりそういう大きな事業も必要かなと私は思います。

もう一つは、朝鮮通信使が乗ってきたであろうその舟を復元をするあるいはまた対馬藩の帆船を復元をする、それをして厳原港祭りがあります。ここでは国書交換式もあります。そうするとやはりそういう船を釜山から出港させて比田勝に寄り厳原港に入ってくる。入ってくるときには、対馬6町に旧6町にありました舟グロー舟でやはり厳原港でそれを出迎えるとか、そういうふうな演出をしながら厳原港に入ってくるというようなことも必要でしょう。それをそこで終わったらそこは今度は厳原港から大阪まで通信使が途中寄港しただろうというような所をずっと寄りな

がら大阪まで行くと、それが帰ってくると、お船江にそれを係留をすると、まあいうことになる  
とですね、莫大な費用がかかりますが、しかしそれをやることによって注目度はものすごく上が  
ってくると思う。テレビもずっと報道はしていくとは思いますが。やはりそういう大きな目標  
も一つは私はあるんじゃないかなと。

確かに財政的に厳しい折ですけどもね、やはりこういうことは大きな事業ですから、対馬が単  
独ではできませんので、そういうことを県とかやっぱり国に働きかけてですね、それをやってい  
くことが私はそういうことも必要じゃないかなと。まあそういうことで、今回一般質問をさせて  
いただいたんです。

市長のね、その考えもわかりますよ。しかしやはり、今アジアに発信する歴史街道都市対馬と  
いうキャッチフレーズがあるのであれば、やはりね、それに向かってそういうことの仕掛けも私  
はいると思うんですけどもね。そこら辺を一つ答弁をよろしくお願いします。

教育長、南部地域のことですが、民俗、習俗、確かにあそこには文化があります。テレビをで  
すね、昔は議会もテレビを皆さん、なかったから見てないですが、今は生中継で映つとるん  
ですよ。そうするとテレビでこんなやって映って、教育長がしゃべったこと、市長がしゃべったこと  
というのは、皆さんが聞いているんです。で、文章に書くようなきれいな言葉で答弁をされても、  
要は実行ができなかったら何にもならないんです。我々が何ほここでね、市長それから教育長に  
質問をしても、きれいな答弁で返ってきて、それがおざなりになって何もできてないということ  
であれば、我々議員がここで理事者側に質問をしても何にもならないということなんです。

もう少しね、そこら辺を真摯に受けとめて、自分たちが発言した言葉の重みをよくよく理解し  
ていただいでですね、今、現在半年たってるんですが、要は半年たっても全く手つけてない、  
地域の人にも聞いてもない。市長が言われる地域マネージャーという人もおるんでしょう。とこ  
ろがその人も何もやっていない。それでその地域がよくなっていきますか。なりません。やはり  
ね、そういうところに、市長の視点である地域マネージャーというのはそういう発想でそういう  
ところの言葉を拾い上げてきて、その人たちと一緒にその地域をよくしていくというのが  
地域マネージャー制度だと私は思うんですよ。全く機能してない。だから、そういうことも含め  
てね、言葉の重みというのをよくよく理解した中で答弁をもう一度よろしくお願いします。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 言われたその答弁は大変難しゅうございますが、1点目のお話ですが、  
それにつきましては、まず、世界記憶遺産登録のこの活動費だけでも相当の経費を要するという  
ふうに思っています。世界文化遺産関係ほどは要らないんじゃないかなとは思っていますが、恐らく  
世界遺産関係の登録までの費用っていうのは億単位使ってあると思います。

この記憶遺産についても日本の世界遺産登録の日本委員会の方たちの現地の問題、いろんなと

ころに回らなくてはいけない、それから今度は世界ユネスコの、ユネスコ世界単位での今度は招致をしなくてはいけないとか、いろんなことがこれは相当の費用がかかる問題だというふうに思っています。

で、そういう意味において、私どもは日韓の両国政府に、表にこれを出していただいてやっていただきたいと、一自治体、また一縁地連社団法人らとしてもそれで担うことは到底不可能なことだろうというふうな思いでこのことには取り組んでおります。

これも言いましたように、相当の費用と馬力を必要とする事業だというふうに思っております。

先ほど答弁させていただきましたように、まずもって2015年の国交正常化50周年ということをきちんと見据えて私どもは動き出しをしたいと思っておりますし、この50周年というのが一つの巖原における博物館の1年目になれるような連動性もまたとっていきたいというふうな考え方を持った上でこれには取り組んでいるところでございます。

そういう意味におきまして、日韓国交正常化50周年というのをまずクリアさせていただいて、当面ある課題を解決した後に、今おっしゃられたような日本で最も史実に残っているやつでは、外国との交流というものを、深さを内外にアピールするような事業の組み立てに取り組まさせていただきますというふうに思います。

○議長（作元 義文君） 教育長、梅野正博君。

○教育長（梅野 正博君） 先ほどの続きになりますけれども、私どもとしては地域の振興につながる文化財の保護、整備にどのようにかかわっていけば地域活性化につながるのかということに対して、地域の方々との協議の場、御意見を聞く場を早急に設けたいと思います。

○議長（作元 義文君） 4番、船越洋一君。

○議員（4番 船越 洋一君） 市長、確かにそれは今、当面その問題がありますからね、その問題には取り組んでいかなあいかんだろうとそれは思います。しかしそれもこれもですね、それだけ重要な遺跡とか文化とか歴史がですね、対馬にはあるということなんですよ。対馬には、それを生かしてないんですよ、今まで。だからそれを最大限に生かす努力は当時の首長であればやはりそこら辺をね、しっかり大きく見据えていって、何年かかかるかわかりませんがね、やはりその研究をしていながらそれをこういうふうな組み立てで、私の発想よりもあなたたちの発想がいいんですから、要はそこら辺をしっかりと組み立てた中で、どういうふうにこれを持っていけば対馬というこの島が世界にアピールできるかなど。日本国内もとよりね、そういう組み立てを少しちょっと考えてくださいよ。

大きな事業になると思いますよ。しかし単独ではできませんからね。それを何とかやっぱりできる方法をですね、すぐにはいっぺんにできませんので計画を立ててじわじわ持っていきながらそれをこう、どういうふうを持っていくぞというのを、組み立てをね、やはり今からしとくべき



じゃないかなと思いますので、そこら辺は市長、どのようにやっていかれようと思いますか、ちょっと後で答弁してください。

それから教育長、大変申しわけないですね、だけどね、学芸員が市長、足りませんよ。うん。もう少しね、教育委員会にね、こんだけの史跡文化財があるのに、予算がないんですよ。今回もね、予算が上がってましたんでね、どこかなと思ってみれば、やはりそういうものをつくらないかんところに入っているわけですから、予算が上がるとだけのことで。だから、もうちょっと教育委員会のほうに金を回していただいて、しっかり要求をして、そしてね、学芸員が足りませんよ、うん。今の人数では足りません。こんだけのものをね、あなたたちはこんだけの人間でやろうと、これは大変なことですよ。職員は2人は今、何ですか。歴史博物館ですか。その計画のほうに入るとるわけでしょう。それをやっておるわけですから。残りの人間で今、やる。対馬全島を見て回るわけですからそれはとてもじゃない、無理ですよ。だからそこら辺まで市長ちょっと考えていただいてですね、この歴史のそういう史跡文化財をしっかりと調査を早くして行って、手をずうっとつけていってもらわんと崩壊していきますよ。それで埋もれてしまいます、これは、ぜひ、そこら辺も含めて市長にお願いをしたいと思うんですが、答弁をよろしくお願いします。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 学芸員の問題がありました。これにつきましては昨年3月まででしたか、3名プラス1名、1名は一般職で雇ったんですけども、学芸員の資格も持った人で、4名いまして、その後、退職されて、今、県のほうから学芸員の資格を持った人を1人、4名体制でおります。

今、おっしゃられるように、この文化財が島内いたるところにある島において、学芸員があまりにも少なすぎるというのはおっしゃられるのは最もだというふうに思ってます。

学芸員がいる数がそろふことと、また、文化庁のほうから予算のつき具合というのは全くこれは違ってまして、文化庁のほうも予算の確保に四苦八苦している状況がございます。この数年というのは、東北震災のほうの関係で、向こうの文化財のほうに、文化庁のほうも、すごく流れておりました。その影響もあってその他の地域への文化財関連の予算というのが回ってこない状況もありました。ただし、来年度につきましては、まあ委託事業という方法もございます、発掘等については、それらの手法も使いながら、巖原の中矢来の雁木の問題とか、先ほどお話がありました御台所門の解放といいますか、その問題とか、そういうところに取り組んでいきたいというふうには思っております。それ以外にももういっぱいあります。

先ほど質問、午前中の質問で、春田議員の質問がございました。要するに、文化財等々との今度はPRの問題、市民への。というのもすごく大切だと思いますし、そのことによって市民の皆様方が改めて対馬の文化財の豊かさというものを感じてもらおう中で、文化財に対する予算の割合

を、また学芸員の補充の問題を理解をいただくようなことにも当然つなげていくような仕組みをしかけていますか、いうのも必要だというふうに思っております。

まあこの分野につきましては、船越議員はもう十分にわかっていただいておりますけども、私自身、最も対馬における潜在能力の高い資産の一つだというふうに私は思っております。これらがきちんと表に出せるような体制をとるために、実は文化財行政と観光行政といいますか。このあたりをタイアップしていくために、新しい年度において総合政策部の中の観光商工の課の中の課内室に歴史のまちづくりと世界遺産の登録の専門室をつくって動かしていくというふうな考え方で、今、教育委員会部局のほうとも話を最終局面まで入ってきている状況で、文化財は文化財、保存だけだとかいうことではなく、この文化財が最も資源でありますので、これらをどのように活用していくかということの部署づくりから入っていきたいというふうな考えで取り組まさせていただきますだけばと思っております。

○議長（作元 義文君） 4番、船越洋一君。

○議員（4番 船越 洋一君） 今、市長の言われるね、この今年度の施策方針説明の中にもね、それがしっかりこう、市長もうたい込んでいるんですね。26年度のこの対馬市総合計画の6つの大綱ということで、ここに上がっておるんですが、第3番目にですね、「固有の歴史文化を発信し、交流の活発な人とまちでは、韓国をはじめとする東アジア都市との国際交流の促進、独自の地域資源を活かした交流人口の拡大、広域交流を支える交通アクセスの強化を重点施策としております。」と、今年度のこれが目標だろうと思うんですね、6つの大綱の1つでしょうか。だからこういうふうなことをしっかりと立ち上げた中で、私が言うのは、先ほど言った600年祭もそれに向けて徐々に徐々に持っていきながらいつ出していくかということの、先ほど入れてくださいということは申しました。

で、市長もそれには、そういうふうなことで前向きな答弁だろうと私は思うんですけどね、今すぐできませんからね。ですからそれはじわじわ持って行って、計画だけはしっかりと持っていきながら、やっぱり歴史街道を発信する対馬ということであれば、やっぱりそういうことも含めてやるべきだと、私はどうしてもやってほしいとこのように思いますしね。だから何としてでもそこら辺の組み立てをしっかりと立ち上げて行っていただきたい。もう一つは、地域マネージャー制度、今度は今、ちょっと今年度はちょっと組み変えて違う方向でやられるみたいですからね、それはそれでいいんですが、せっかく地域マネージャーというのが地域におりながら、まだまだ機能がしてない。財部市政になって今5年目ですか、6年目ですか。やっぱりそういう方針を打ち出して、それに行政がかかわっている地域マネージャーがそうでしょうけど、学校ごとに地域マネージャーがおるんでしょうけども、それが機能してない地域がある。しかし一生懸命やっている地域もある。格差がものすごいんですよ、これ。で、それはね、市長のやはり職員に対

するですね、そこら辺の指導力だと私は思うんですよ。行政に例えば採用されたときに、そのなんか誓いの言葉かなんかありますか。私はね、やはり行政マンというのは市民の公僕だと思うんですよ。で、採用されたときにはやはり誓いの言葉なり一言言わせてですね、私は対馬市民の公僕としてしっかり頑張っていきますというぐらいの誓いを言わせてでも、やはりそれぐらいの気迫がないとですね、どうもただらしておるというような感じを受けますのでね、そこら辺は市長の指導力でしっかりこうやっていただきたいと思います。

もう一つは、やはり我々は議員です。で、行政と議員がこの対馬の最高の決定機関です、この場は。そうしますとね、やはりお互いに言葉には責任を持たないかならうと思います。けども中を見てますとね、やはり背広の前のボタンもかけんで答弁をする職員もおるんです。やはりこれはマナーですよ。人と話をするときには前のボタンはしっかりとかけてそれで話をするというのが私は基本だろうと思うんです。だらあっと開けたままにしてね、答弁をするというのもおかしい話です。

テレビでね、やっぱり市民の人たちが見るとね、やっぱりたるんだらうという声も聞きます。だからそういうところから、やっぱり神聖な最高機関であるこの決定機関であるこの対馬市議会の中というのをテレビで今、放映されているわけですから、そういうところはね、お互いが、議員もそうです。行政もやはりね、そういうところはしっかりと取り組んでですね、ぴしっとした態度でこの議会というのは進めていただきたい。私はそう思うんですけどね。どうですか、市長。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 地域マネージャー制度のことで地域に濃淡があるということは十分に、この何年の間で私自身も感じております。

それをマネージャーのみならず地域の問題もそれはあろうかと私は思ってます。で、今回言いましたように、地域の方々と地域づくり計画を、総合計画をつくるに当たっての地域づくり計画のつくり込みを、全部の地域、校区でやっていただくということにしております。

当然、総合計画という一つの冊子の中に、その地域ごとの計画というのも一緒に綴り込むという考え方で今おります。で、その計画というのがない地域っていうのがあってはおかしいことになってしまいます。

そういう意味において職員のほうにもその濃淡があるものですから、あえて負荷をかける意味においても総合計画の中で地域づくりと一緒に挟み込みますというふうなことにしております。

それで動き出しをしてもらいたいなと思っておりますが、まあこの何年間の問題については、今、船越議員がおっしゃられるように、それは明らかに私の指導力のなさゆえの問題なのかなあと今、聞いてて思いました。それについては何度となくそのあたりの研修等についても進めていき、こちらの考え方、そして地域を輝かせるためにどうするべきかという手法の一つとして伝え

て、何度となく来たつもりでありますけども、それが伝わってないということ。またさらには、この議場の中でのマナーの問題についても、専ら私の指導力の、私が日ごろそこまできちんと目配せをしてないことの部分がそういう形であらわれてるんだろうなというふうに、今お話を聞いて改めて反省をしているところであります。

○議長（作元 義文君） 4番、船越洋一君。

○議員（4番 船越 洋一君） ぜひそういうところも市長、目を配っていただいでですね、行政の中のやっぱりかじ取り役ですから、対馬のかじ取り役ですから、そういうことにもしっかりと目を配っていただいで、我々もしっかり頑張っていきますのでね、やはり行政のほうものしっかりかじ取りをよろしく願いをします。

もう一つ、教育長、ちょっと先ほどちょっと言い忘れましたが、豆殿地区、今、消防署ができてますよね、消防署。ここにですね、石のこういうのが出てきておるんですね。で、教育委員会に私、電話入れたんですよ。そしたらね、ここに書いてある文字がですね、「令旨奉戴」という字が書いてあるんですね。これちょっと、これ本当かどうか知りませんが、ちょっと調べてもらったらですね、「令旨」というのは皇族のお言葉だそうです。それから「奉戴」というのはおしいただくという意味だそうですよ。こういうねこれはね、今、消防署ができておる所の解体をする所から出てきたということなんです。ここはもと何というんですか、兵隊さんがあそこにおつてですね、裏の石垣やなんかっていうのは兵隊さんがつくったものだそうです。日露戦争終戦後に、昭和5年に豆殿村青年団で皇族の方よりおしいたいたお言葉を石碑としてこの場所に建てたと思われましてということなんです。

こういうものがね、やはり例えば各地で工事をするときには出てきますよね。そういうのはやはりその空き地があればですよ、そこら辺にね、ちょっと建ててやってしとくってということも必要でしょう。場所がなければの話ですが。

ところが教育委員会に私も電話を入れて、見にいってくれたそうなんです、きのうでしたか、私ちょっと豆殿まで走ってね、どういう状況かなと思って見に行ったんですよ。そしたら裏の方の隅っこにですね、放たりやっとなんか言うたらおかしいけども、なんかその端っこのほうにおいてありましたよ。

で、やはりね、これは工事が完了すればですね、どっか市長、裏のほうにでも、ちょっと小さなもんですからね、ちょっとこう並べてやるとか、それぐらいの配慮は私はあつていいとは思ってますよ。だからそういう小さなところにもね、やはり一つの文化財になるかもわかりません。だからそういうことも含めて教育長にお願いをしときます。よろしくどうぞお願いします。終わります。

○議長（作元 義文君） これで船越君の質問は終わりました。